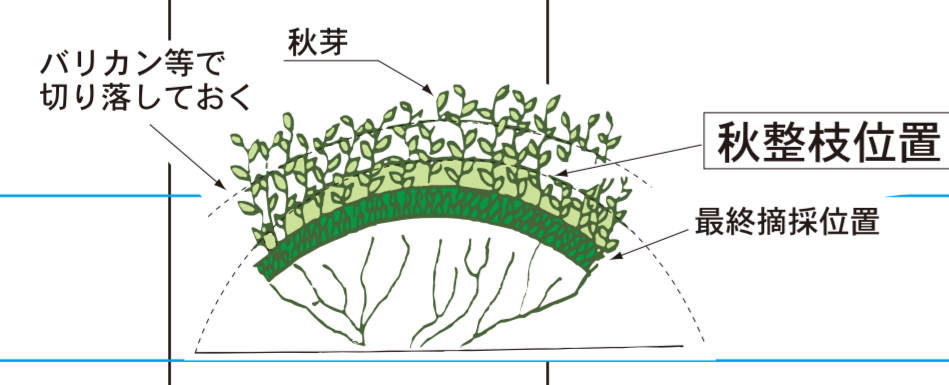


一般防除

月	旬	生育過程	病害虫防除			重点管理作業		
			防除時期	対象病害虫	薬剤名・希釈倍数・使用時期(摘採前日数)	作業名	管理時期	摘要 (日)は、摘採前日数
1	上	中下				補完防除	赤焼病初発(12月~2月)	赤焼病の初発確認直後に。カスミンボルドー1000倍(30日)展着剤を加用。
	管理機械の点検					一番茶摘採前まで	摘採機の刃研ぎやすり合わせなど点検を十分に! 防除機については、農業に対する飛散軽減対策を徹底する。	
2	上	中下				春肥1回目	2月上旬	魚糞入りあいら茶配合、有機質肥料を主体に土と混和(根を切らないように注意)
	補完防除					2月上旬~2月末	クワシロカイガラムシ防除。プレートMC 1000倍(30日前)。容器の管理をしっかりと!	
3	上	中下	上~中旬	カンザワハダニのみ発生の場合 ハダニ、サビダニ類の混発の場合	バロックフロアブル 2000倍(14日) ダニゲッターフロアブル 2000倍(7日)	防霜対策	2月下旬~3月上旬	防霜開始(摘採の50日前を目途に) 事前点検・試運転を十分に!センサー位置の確認。設定温度は、防霜ファンの場合が2℃、スプリンクラーの場合が0℃から開始する。
	中~下旬		ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)	ハマキコンNを使用する場合(ハマキ天敵使用の場合は必要ない) ハマキコンN150本/10a 摘採前10cm下設置 ※ハマキコンNは、各うねに約4m間隔で千鳥状に設置	春肥2回目	3月上旬	春のきすな、有機質肥料を主体に土と混和(根を切らないように注意)	
4	上	中下				芽だし肥	摘採30~35日前	新ボンデル入り茶配合、速効性の肥料を施用。
	液肥					3月下旬	液肥施用(摘採2週間前までに)	
5	上	中下	第一世代ふ化最盛期	クワシロカイガラムシ チャトゲコナジラミ	アブロードエースフロアブル 1000倍(14日) ※チャトゲコナジラミのみを防除する場合は10a当400%散布 ※プレートMC使用の場合は必要ない。	一番茶摘採	4月中旬~5月上旬	茶工場と打合せて計画摘採に努める。
	第一世代幼虫発生期		ハマキムシ類(チャノコカクモンハマキ、チャハマキ)	ハマキ天敵を使用する場合(ハマキコンN使用の場合は必要ない) ハマキ天敵 2000倍(前日) ※展着剤加用	中切り更新	一番茶摘採後	できるだけ早く中切りして新芽の生育期間を確保する。中切り更新後、ティーチャーエース(石灰窒素)を施用。	
6	上	中下	萌芽~1葉期	たんそ病、もち病、 ※黒葉腐病 ウンカ、スリップス	ダコニール1000 1000倍(10日) ※黒葉腐病は700倍散布 ウララDF 1000倍(7日)	整枝	一番茶後	1回目を摘採5日以内に、2回目を摘採17~22日後に二番茶芽を切らないように遅れ芽のみ軽く整枝する。
	萌芽~1葉期		ウンカ、スリップス、ホソガ	スタークル顆粒水溶剤 2000倍(7日)	夏肥1回目	二番茶萌芽期	アミノ入り芽だし、速効性の肥料を施用。	
7	上	中下	萌芽~1葉期	ウンカ、スリップス、ホソガ	スタークル顆粒水溶剤 2000倍(7日)	補完防除	二番茶1葉期	チャノホンガ発生時 ノーモルト乳剤 2000~4000倍(7日)
	萌芽~1葉期		たんそ病、網もち病、 もち病、新梢枯死症 ウンカ、スリップス、 マダラカサハラハムシ	ベドー水和剤 500倍(14日) 混用 エクシレルSE 2000倍(7日)	被覆	摘採6~7日前	直接掛けで中5~6日間被覆(遮光率の高い被覆資材は、葉焼けに注意)	
8	上	中下	萌芽~1葉期	たんそ病、網もち病、 もち病、新梢枯死症 ウンカ、スリップス、 マダラカサハラハムシ	ベドー水和剤 500倍(14日) 混用 エクシレルSE 2000倍(7日)	二番茶摘採	6月上旬~下旬	一番茶摘採から45日前後。
	3~4葉期		たんそ病、網もち病、 もち病 ウンカ、スリップス、 チャトゲコナジラミ	インターフロアブル 5000倍(7日) 混用 ガンバ水和剤 1500倍(14日) 混用 ※チャトゲコナジラミ発生圃は10a当400%散布	深刈り更新	二番茶摘採後	摘採後できるだけ早く行い、新芽の生育期間を確保する。深くならずないように注意。(6月20日までに終える)	
9	上	中下	秋芽生育期	たんそ病、網もち病、 もち病 ウンカ、スリップス、 チャトゲコナジラミ	インターフロアブル 5000倍(7日) 混用 ガンバ水和剤 1500倍(14日) 混用 ※チャトゲコナジラミ発生圃は10a当400%散布	整枝	二番茶後	1回目は摘採後5日以内、2回目は摘採14~16日後に三番茶芽を切らないように遅れ芽のみ軽く整枝する。
	秋芽生育期		秋芽	秋芽生育期	ハマキムシ類、シャクトリ、ホソガ、チャトゲコナジラミの発生時 ディアナSC 5000倍(摘採前日まで)	夏肥2回目	三番茶萌芽期	グリーン3号、速効性の肥料を施用。
10	上	中下	秋芽生育期	たんそ病、網もち病、 もち病 ウンカ、スリップス、 チャトゲコナジラミ	インターフロアブル 5000倍(7日) 混用 ガンバ水和剤 1500倍(14日) 混用 ※チャトゲコナジラミ発生圃は10a当400%散布	三番茶摘採	7月中旬~下旬	二番茶摘採から35日前後 一節程度上げて摘採し、秋芽の伸育を良くする。
	秋芽生育期		秋芽	最終摘採	7月末	最終摘採は、7月末までに終え、秋整枝時期には充実した秋芽を確保する。	補完防除	最終摘採・整枝直後
11	上	中下	秋芽生育期	たんそ病、網もち病、 もち病 ウンカ、スリップス、 チャトゲコナジラミ	インターフロアブル 5000倍(7日) 混用 ガンバ水和剤 1500倍(14日) 混用 ※チャトゲコナジラミ発生圃は10a当400%散布	補完防除	最終摘採・整枝後	ウンカ、スリップス多発時 ハチハチ乳剤 1000倍(14日)
	秋芽生育期		秋芽	堆肥・深耕	8月下旬~9月中旬	完熟牛糞主体堆肥 1トン/10a以内、深耕を行い土壌の通気性、透水性を改善。土づくり。	補完防除	秋芽4~5葉期
12	上	中下	秋芽生育期	たんそ病、網もち病、 もち病 ウンカ、スリップス、 チャトゲコナジラミ	インターフロアブル 5000倍(7日) 混用 ガンバ水和剤 1500倍(14日) 混用 ※チャトゲコナジラミ発生圃は10a当400%散布	液肥	9月上旬~中旬	液肥施用
	秋芽生育期		秋芽	秋肥3回目	10月上旬	茶のきすな秋1号	補完防除	初霜期~12月中旬
						防霜施設点検	10月末~2月	防霜施設の保守・点検・修理。



米 国 輸 出 向 防 除

月別	旬別	生育過程	病害虫基幹防除			
			防除時期	病害虫名	秋冬番茶US表示できない防除体系	秋冬番茶US表示できる防除体系
1	全					
2	上	中下	2月下旬~3月上旬	ハダニ サビダニ ホコリダニ	ダニゲッターフロアブル(7日) または バロックフロアブル(14日、ハダニのみ)	ダニゲッターフロアブル(7日) または バロックフロアブル(14日、ハダニのみ)
	中					
3	上	中下	一茶萌芽期~1葉期	ハマキムシ類	ハマキコンN ※ハマキ天敵使用の場合は必要ない	ハマキコンN ※ハマキ天敵使用の場合は必要ない
	中					
4	上	中下	クワシロふ化最盛期	クワシロカイガラムシ チャトゲコナジラミ	アブロードエースフロアブル(14日) ※チャトゲコナジラミを防除対象とする場合は10a当400%散布	アブロードエースフロアブル(14日) ※チャトゲコナジラミを防除対象とする場合は10a当400%散布
	中		ハマキ幼虫発生期	ハマキムシ類	ハマキ天敵(摘採前日まで)	ハマキ天敵(摘採前日まで)
5	上	中下	二茶萌芽期~1葉期	たんそ病、もち病 ウンカ スリップス ホソガ	Zボルドー(7日) スタークル顆粒水溶剤(7日) (アルバリン顆粒水溶剤)	Zボルドー(7日) スタークル顆粒水溶剤(7日) (アルバリン顆粒水溶剤)
	中					
6	上	中下	三茶萌芽期~1葉期	ウンカ スリップス	ウララDF(7日)	ウララDF(7日)
	中					
7	上	中下	最終摘採直後	輪斑病	カスミンボルドー(30日) (カッパーシン水剤)	カスミンボルドー(30日) (カッパーシン水剤)
	中		秋芽萌芽期~1葉期	たんそ病 網もち病 ウンカ スリップス ホソガ マダラカサハラハムシ	ダコニール1000(10日) エクシレルSE(7日)	フロンサイドSC(14日) エクシレルSE(7日)
8	上	中下	秋芽2~3葉期	たんそ病、新梢枯死症 ウンカ、スリップス ホソガ		アミスター20フロアブル(14日) キラップフロアブル(7日)
	中		8月中~下旬	チャトゲコナジラミ コカクモンハマキ チャハマキ エダシヤク	ディアナSC(摘採前日まで)	
9	上	中下	秋芽3~4葉期	たんそ病 網もち病 ウンカ スリップス	インターフロアブル(7日) コルト顆粒水剤(7日)	
	中		秋芽4~5葉期	網もち病		フジドールフロアブル(14日)
10	全				秋冬番茶 (US表示できない)	秋冬番茶 (US表示できる)
11	全					
12	全					

○生産履歴の記録は正確に。
○経営改善のため第三者認証に取り組みましょう。

○安全安心でクリーンな茶づくりを実践しよう。

- 異物混入防止対策について**
 - 摘採前、茶園面の落ち葉、雑草、被覆用資材の破片等が無い確認し、必ず取り除く。
 - 降灰の有無を確認し、降灰が確認された場合は、必ず除灰する。
- 防霜施設取扱い上の注意**
 - スプリンクラー使用時は、道路へ水が飛散しないように注意する。
- 乗用型管理機取扱い上の注意**
 - 枕地を必ず設け、一般道での旋回をしない。
 - 移動の際は、通行に十分な配慮を行う。
 - トラクターを道路上に放置しない。